

戦後80年 ちひろと世界の絵本画家たち 絵本でつなぐ「へいわ」

2025年7月26日(土)~10月26日(日)

主催: ちひろ美術館

後援: 絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、

日本児童図書出版協会、杉並区教育委員会、西東京市教育委員会、練馬区

協力: 董心社、福音館書店

絵本をとおして、 平和と戦争について考える

2025年は日本の第二次世界大戦の敗戦から80年にあたります。いわさきちひろたち、戦争を経験した画家は、二度と戦争を繰り返してはならない、子どもたちにしあわせであってほしいという切実な思いを絵本に込めました。その思いは次の世代、さらにその次の世代の絵本のつくり手たちにも受け継がれ、子どもたちの心にたくさんの平和の種をまいてきました。

本展では、ちひろや世界の絵本画家たちが平和への思いを込めて描いた絵本や、戦争を描いた絵本の原画を、画家からのメッセージとともに展示します。また、戦後出版された絵本のなかから、戦争と平和を考える絵本約150冊を選書して紹介します。

世界ではこの80年の間にも、戦火が絶えることはありませんでした。世界各地で戦争や紛争が続き、日本でも危機感が高まるいま、絵本を通して、さまざまな角度から平和について考えます。



1 いわさきちひろ 見つめる少女
『わたしがちいさかったときに』(童心社)より 1967年



2 いわさきちひろ 原爆ドーム
『わたしがちいさかったときに』(童心社)より
1967年

ウクライナやガザの問題で子どもたちはどうしているのだろうと思ったとき、戦争のときに子どもだった自分はどうだったか思い出しました。子どもにとって戦争の何が一番嫌かと言うと、自由ではない、何をやってもいいないということだと思います。

戦前を知る身としては、今の時代が確かにあの頃と似ていると思うことがあります。あのときは、いつの間にか戦争が始まり、私たちの気づかないうちに、当たり前だった日常生活が失われていきました。そのことを知ってほしいと思って、『窓ぎわのトットちゃん』の続編^{*}で、私の記憶の中にある戦争と戦後のこと書きました。

戦時下や被災地での子どもたちの窮状が毎日報道されている今、この展覧を見てくださった方々が、世界中の人たちと、「みんないっしょにやっていこうね」という気持ちを持って帰ってくださればうれしいです。

黒柳徹子(ちひろ美術館・館長、ユニセフ親善大使)

*『続 窓際のトットちゃん』黒柳徹子・著 講談社 2023年



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団
ちひろ美術館・東京

〈展示室1・2〉

世界の絵本画家たちがつなぐ、平和への思い

展覧会の見どころ 1

平和を願って——戦後の日本の絵本画家たち

1931年から日本は15年に及ぶ戦争へ突き進み、戦時中には絵本も子どもたちの戦意を高めるために利用されました。戦後、二度と戦争を繰り返さない平和な国をつくることが切実に望まれるなかで、それぞれの戦争体験を経ながら、日本の絵本の新しい時代を切り拓いてきた画家たち——茂田井武や赤羽末吉、八島太郎、長新太、田島征三ほか——の作品を展示します。



3 茂田井武(日本) おめでとう 1956年

4 nakaban (日本)『ひとのなみだ』(童心社)より
2024年 個人蔵(特別出品)

展覧会の見どころ 2

戦争を描いた3冊の絵本

広島の原爆を詳細な取材をもとに描いた科学絵本『絵で読む広島の原爆』(那須正幹・文 西村繁男・絵 福音館書店 1995年 / 特別出品)。戦争の恐ろしさを忘れて再び戦争に向かう大人に警鐘を鳴らす『ねんどの神さま』(那須正幹・文 武田美穂・絵 ポプラ社 1992年)。近未来の戦争を描いた『ひとのなみだ』(内田麟太郎・文 nakaban・絵 童心社 2024年 / 特別出品 第30回日本絵本賞受賞)。戦争を描いた3冊の絵本を通して、戦争はなにをもたらすのか、戦争を起さないためにどうしたらよいかを考えます。



5 西村繁男(日本)『絵で読む広島の原爆』(福音館書店)より 1995年 個人蔵(特別出品)



〈展示室1・2〉

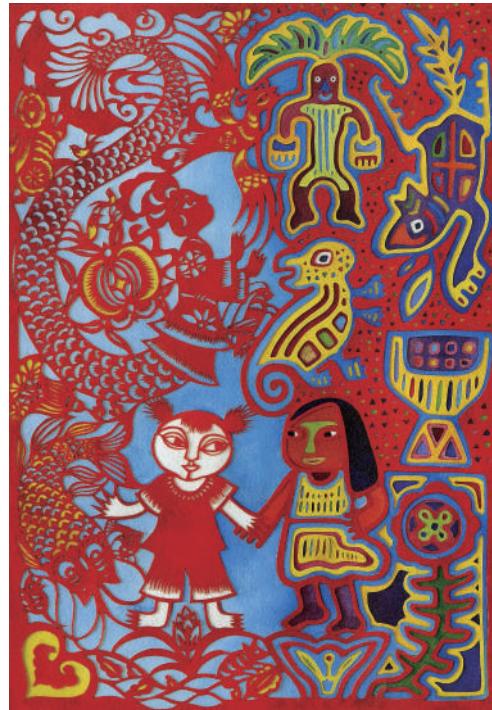
展覧会の見どころ 3

絵本は平和のかけ橋に

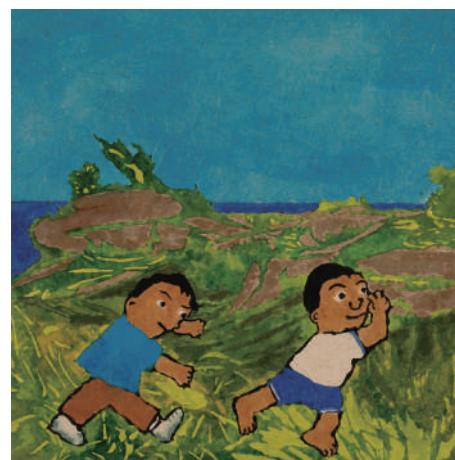
優れた絵本は、国境を越えて、地域の文化や人の心を互いに理解し合うためのかけ橋にもなります。ちひろ美術館では欧米だけでなく、日本ではあまり紹介されてこなかったアジアや南米、アフリカの画家たちの作品も収集し、現在は世界35の国と地域の絵本作家たちの作品が収蔵されています。世界の絵本作家たちの作品とともに、平和を願う作家たちのメッセージも紹介します。



6 デビッド・マッキー（イギリス）『エルマーとカンガルー』より 2000年



7 ウェン・シュウ（コスタリカ）『ナディとシャオラン』より 2008年

9 荒井良二（日本）
『ユックリとジョジョニ』
(ほるぷ出版) より
1991年8 ユーリー・ノルシュテイン&フランチェスカ・ヤールブソワ（ロシア）
『きつねとうさぎ』（福音館書店）より 2003年10 田島征彦（日本）
『ふしぎなともだち』
(くもん出版) より
2014年

展覧会の見どころ 4

平和とはなんだろう？

平和とはなにか、戦争を経験していない世代にとってはイメージしにくいかかもしれません。絵本には、子どもも大人も、ともに平和について考えるヒントがつまっています。お互いの違いを認め合いながら、多様な人たちがともに生きられるように、身近なところから「平和」を考えるきっかけを、絵本をとおして見ていきます。



〈展示室3・4〉

いわさきちひろ つたえたい記憶

展覧会の
見どころ 5

広島の被爆から80年 ちひろが描く広島の原爆

ちひろは1967年、被爆した広島の子どもたちの手記に絵をつけた絵本『わたしがちいさかったときに』(童心社)に絵を描き、どんなに可愛い子どもたちがその場におかれていたかを伝えることに心を碎きました。日本原水爆被害者団体協議会のノーベル平和賞受賞を機に、次の世代に語り継ぐことの大切さが話題になっている今、ちひろの絵をとおして、平和への思いのバトンを未来へとつなげます。

展覧会の
見どころ 6ベトナム戦争の戦時下の子どもたちを描いた
『戦火のなかの子どもたち』

ちひろは亡くなる前年の1973年、ベトナム戦争をテーマに『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)を発表します。ベトナム戦争が熾烈を極めるなか、ちひろは「私のできる唯一のやりかただから」と病をおして、自らの空襲体験も重ねながら、戦争への怒りと悲しみを描きました。『戦火のなかの子どもたち』の絵本づくりに注目します。

展覧会の
見どころ 7夏から秋の子どもたち
—2点の初公開作品も!

友だちと夢中になって遊んだり、身近な自然に季節の移ろいを見つけたりと、なにげない日々のくらしのなかに、しあわせを感じるときがあるでしょう。ちひろは、いきいきと遊ぶ子どもの絵にも平和への思いを込めました。本展では、初公開となる新収蔵品「こどものせかい」の原画2点を含む、夏から秋への子どもたちを描いた作品も展示します。

出展作品数

約130点(世界の絵本画家 約80点、いわさきちひろ 約50点)



11 いわさきちひろ 焰のなかの母と子
『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)より 1973年



12 いわさきちひろ 貝と赤い帽子の少年 1970年



13 いわさきちひろ
つば広帽子の少女
1970年頃



14 いわさきちひろ
しゃぼん玉を吹く少女 1969年



15 いわさきちひろ 「あきのうた」 1959年 (新収蔵作品)



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

chihiro.jp



お問い合わせ

広報担当 北村・原島・松方

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2
TEL.03-3995-0772 (業務用) FAX 03-3995-0680
TEL.03-3995-0612 (代表)
E-mail : publicity@chihiro.or.jp

*各イベントの詳細は公式サイトに決まり次第掲載します

戦後80年 ちひろと世界の絵本画家たち 絵本でつなぐ「へいわ」 展示関連イベント

松本猛ギャラリートーク

日時：7月27日(日) 14:00～14:40

参加費：無料(入館料別)／申し込み：不要

アーサー・ビナード(詩人) 講演会

日時：8月3日(日) 14:00～15:30

会場：【ちひろ美術館・東京】定員：40名／参加費：1000円(入館料別)

【オンライン】定員：100名／参加費：700円

申し込み：要事前予約(7/3(木)より公式サイト、TELにて)

アメリカ生まれの詩人といっしょに戦後のこれからをさぐります。

Silent Fallout 上映会

日時：8月30日(土) 13:30～

会場：【ちひろ美術館・東京】

申し込み：要事前予約(7/30(水)より公式サイト、TELにて)

アメリカの大気圏内核実験を止めさせたのは、子どもたちの乳歯を集め分析した母親たちだったー。上映後、伊藤英郎監督によるトーク(オンライン)があります。

対談 武田美穂(絵本画家) × 松本猛(ちひろ美術館常任顧問)

日時：9月14日(日) 14:00～15:30

会場：【ちひろ美術館・東京】定員：40名／参加費：1000円(入館料別)

【オンライン】定員：100名／参加費：700円

申し込み：要事前予約(8/14(木)より公式サイト、TELにて)

絵本画家の武田美穂が自身の絵本づくりを通して子どもたちに伝えたいこと、平和について語ります。

内田麟太郎(詩人・絵詞作家) 講演会

日時：9月28日(日) 14:00～15:30

会場：【ちひろ美術館・東京】定員：40名／参加費：1000円(入館料別)

【オンライン】定員：100名／参加費：700円

申し込み：要事前予約(8/28(木)より公式サイト、TELにて)

新刊／展示関連書籍

『1945年8月6日 あさ8時15分、わたしは』

言葉／原爆を体験した子どもたち

絵／いわさきちひろ 童心社

定価1,870円(本体1,700円+税10%)

時をこえて当時の子どもたちと出会い、わたしたちは今日を、明日をどう生きるのかをともに考える絵本です。



展覧会基本情報

展覧会名 戦後80年 ちひろと世界の絵本画家たち
絵本でつなぐ「へいわ」

会期 2025年7月26日(土)～2025年10月26日(日)

※会期は予告なく変更になる場合があります。

○開館時間＝10:00～17:00(入館は閉館の30分前まで)

○休館日＝月曜日(祝休日の場合は開館、翌平日休館)、

8月11日(月)は開館

※開館情報、会期、展示名、イベント内容などは予告なく変更する可能性があります。

会期中のイベント

ちひろ忌・アトリエトーク

日時：8月8日(金) 14:00～／参加費：無料(入館料別)

申し込み：不要

ちひろの水彩技法体験ワークショップ にじみのキーホルダーをつくろう

日時：8月20日(水)、21日(木)

10:30～15:00(予定)

参加費：5歳以上／定員：各日50名(先着順)

参加費：300円(入館料別)

申し込み：当日10時より受付、先着順



開館記念日 たてものツアー

日時：9月10日(水) 14:00～

参加費：無料(入館料別)／申し込み：不要

敬老の日 9月15日(月・祝)

65歳以上の方は無料でご入館いただけます。

(受付にてお申し出ください。)

出張「子育てのひろば」

日時：9月17日(水) 10:00～15:00

参加費：無料(入館料別)／共催：NPO手をつなご

わらべうたあそび

日時：9月20日(土) 11:00～11:40

講師：服部雅子(西東京市もぐらの会代表・はとさん文庫主宰)

参加費：無料(入館料別)

申し込み：要事前予約(8/20(水)より公式サイト、TELにて)

ギャラリートーク

日時：毎月第1・3土曜日 14:00～14:30

参加費：無料(入館料別)／申し込み：不要

絵本のじかん

日時：毎月第2・第4土曜日 11:00～11:30

参加費：無料(入館料別)／申し込み：不要

協力：NCBN(ねりま子どもと本ネットワーク)



次回展示予告

10月31日(金)～2026年2月1日(日)

装いの翼—
いわさきちひろ、茨木のり子、岡上淑子

入館料

大人1200円／高校生・18歳以下無料／団体(有料入館者10名以上)、65歳以上、学生の方は900円／障害者手帳ご提示の方とその介添えの方(1名)は無料／年間パスポート3000円

交通

○電車の場合＝西武新宿線上井草駅下車徒歩7分

○バスの場合＝JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分／西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分

お問い合わせ

広報担当 北村・原島・松方

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2

TEL.03-3995-0772(業務用) FAX 03-3995-0680

TEL.03-3995-0612(代表)

E-mail: publicity@chihiro.or.jp



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

chihiro.jp

